ISSN　1340-2609

兵庫県立歴史博物館紀要

塵　界

第　33　号

二階坊俊源―鎌倉時代の書写山圓教寺僧の栄光と陰―　神戸　佳文　1

「廃城令」直前期における全国の城郭調査をめぐって
―「陸軍省絵図」との関係も含めて―　竹内　信　11

播磨国福本藩関係ふすま下張り文書について　濵室かの子
吉原　大志　45

【活動報告】
姫路市網干区・不徹寺の下張り文書と現地における資料展示　濵室かの子　55

【収蔵資料目録】
入江コレクションの子ども雑誌（大正期）　香川　雅信　92(21)

【展覧会記録】
特別企画展「唱歌！西洋音楽がやってきた　ー明治の音楽と社会ー」
山田加奈子　102(11)

【展覧会記録】
特別企画展「広告と近代のくらし」　吉原　大志　112(1)

2022(令和４)年３月

兵庫県立歴史博物館

【活動報告】

姫路市網干区・不徹寺の下張り文書と現地における資料展示

濵室　かの子

はじめに

二〇二一年（令和三）十一月六日から七日にかけて、兵庫県姫路市網干区にある不徹寺では曝涼（ばくりょう）展が行われた。曝涼とは書物や衣類、宝物などを風通しや虫干しする、資料保存のための重要な作業で、不徹寺では寺内で保管されている仏像や書物、衣類などが曝涼に合わせて展示された。この曝涼展において兵庫県立歴史博物館は、不徹寺から寄贈を受けた板戸や衝立（ついたて）からはがした古文書の一部や、はがし終わって下地骨と台脚のみとなった衝立のほか、解説パネル等を展示した。

不徹寺からの寄贈の経緯としては、二〇二〇年（令和二）十月に特別展「女たちのひょうご―千姫から緒方八重まで―」を開催するにあたり、不徹寺から多くの資料を借用し、展示したことがある。当時、資料調査で不徹寺を訪れた際、表紙がはがれて下張り文書が露出している板戸と衝立の存在が確認され、板戸二枚と衝立一枚が当館に寄贈されることとなった。上記三点はいずれも数層にわたり古文書が下張りされているものであり、当館では筆者を中心にして約一年をかけて下張り文書の調査・研究を進めた。

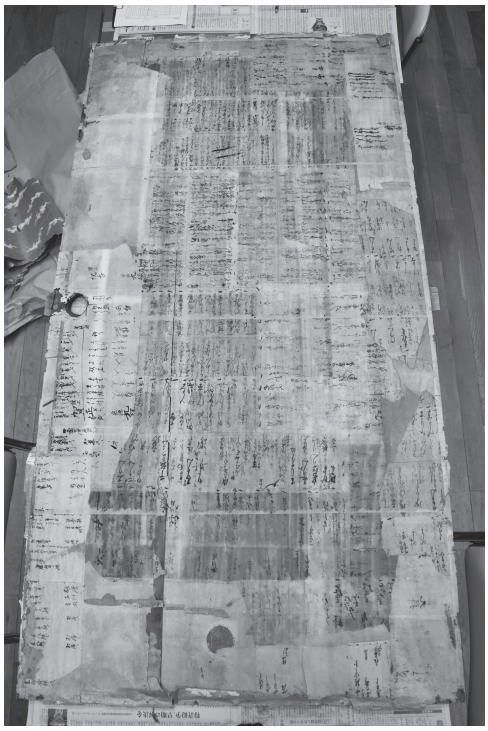
今回の曝涼展における展示では、寄贈元である不徹寺での資料展示となり、不徹寺にゆかりのある方や地域の方々に資料をご覧いただくとともに、下張りの仕組みや古い襖などに眠る古文書の存在を伝えることができた。本稿では、不徹寺から寄贈された板戸や衝立からはがした下張り文書の概要や、はがし作業の記録のほか、不徹寺における下張り文書の展示、解説の様子について記録するものである。

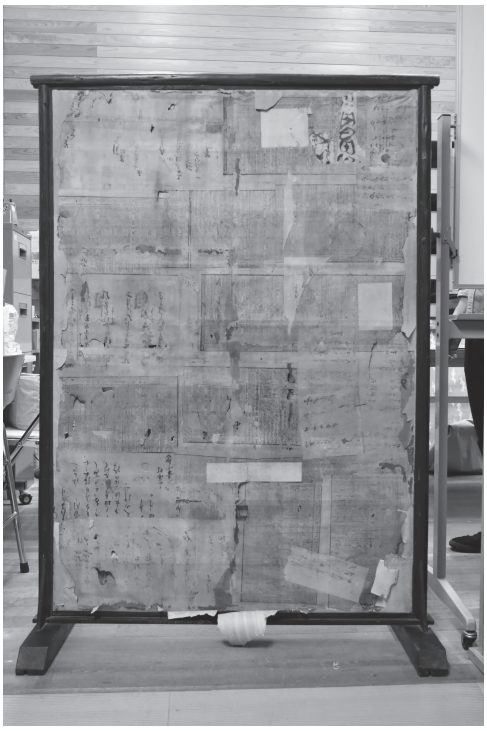
一　下張り文書のはがし作業

（一）資料の形状

二〇二〇年に不徹寺から寄贈されたのは板戸二枚と衝立一枚であった【写真1】。板戸は片面のみに下張りがされていて、表紙として模様の描かれた紙が張られていた。二枚とも寄贈時には表紙は破れており、下張り文書が露出していた。また、板戸の枠木は破損が著しく、釘や木片が晒されている箇所もあった。一方で衝立は、表裏両面に下張りが施されており、片面には書の書かれた表紙が張られ「新建環翠樓記」という題がはっきりと読み取れた

が、こちらも破れて下張り文書が露出していた。また反対側の表紙はすでに無く、下張り文書の層が一番外側になっていた。枠木や台脚についてはしっかりとした造りのまま残されており、自立している状態であった。





【写真１】衝立（右）と板戸（左）の下張り文書

（二）現状記録と解体・はがし作業

板戸や衝立から下張り文書をはがせる状態にするためには、外側の枠木を外したり、表紙をはがしたりする解体作業が必要となる。作業を行うにあたり、兵庫県内において下張りはがしに関する活動実績の豊富な松下正和氏（神戸大学地域連携推進室特命准教授）から直接指導をいただく機会を得た。松下氏には、現状記録の取り方から具体的な解体方法、はがし作業における注意点まで丁寧にご指導いただいた。その結果、板戸に関しては枠木を全て外してからのはがし作業となったが【写真2】、衝立の方は下地骨がしっかり組まれており、外側の枠木だけを外すことが難しかったため、下張り層と外側の枠木の接着面にカッターで切れ込みを入れてからはがしていく方法を取ることとなった。



【写真２】はがし作業の様子

はがし作業の結果、紙が薄すぎてはがすことが出来ない箇所もあったが、今回対象とした下張り文書の分量は、以下のとおりであることがわかった。まず層数について、板戸はどちらも三層ずつ、衝立は表紙に書の書かれた方を表とし、表は四層、裏は三層であった。次に、はがして目録データとして整理のできた下張り文書の数は、板戸二枚を合わせて九十六点、衝立は表が八十一点、裏が八十三点となった。

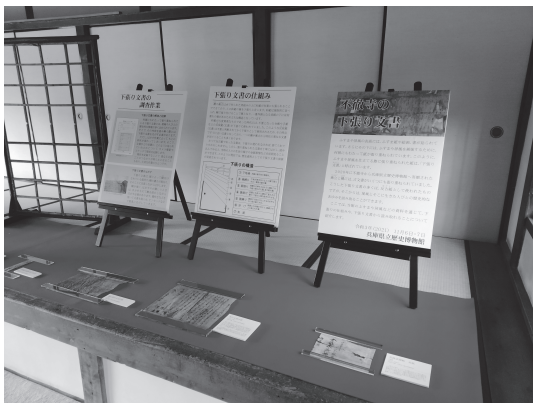
二　不徹寺曝涼展における下張り文書展示

（一）不徹寺について

不徹寺は一六八八年（元禄元）に「田ステ女」として知られる貞閑尼の創建した「不徹庵」から始まり、築三〇〇年以上が経つ禅堂を持つ臨済宗妙心寺派の尼僧庵である。不徹寺では日常的に座禅会、写経会、女性限定の修行体験などの他、気軽に参加できる茶話会や懐石料理の会、お香の会など、様々な催しを行っている。公式ホームページには「創建より、女性によって女性の自立・学び・精神修養を自らの手で作り上げてきたという歴史があります。このような流れをくんで、現代を生きる女性が出家如何を問わず自分自身を見つめ直す場所として開かれたお寺にしようと考えております。」との記載があり、宗教行事や法事がなくても気軽に訪れ、住職との会話や、座禅、お茶、お香などを通じて文化や歴史に日常的に触れることができる場所となっている。また、近年はＳＮＳを用いた情報発信もされ、地域や世代を超えて多くの方が不徹寺を訪れている。

（二）曝涼展の開催と当館からの出展資料の概要

今回の曝涼展では、不徹寺本堂と禅堂において、貞閑尼の自伝や、貞閑尼の師で網干出身の盤珪禅師の遺品、手彫りの仏像のほか、尼僧教育に使われたと思われる論語、節句についての解説書、手紙の文例集など、不徹寺の歴史を語る資料が、住職とボランティアの方々によって展示された。当館は、禅堂の左右に展示スペースとして用意された八畳のうち、本堂から入る入口に近い四畳分の場所を使用して資料を展示した。展示した資料は、寄贈された板戸や衝立からはがした下張り文書五点のほか、はがし終わって下地骨と台脚のみとなった衝立で、このほかに資料の由来や下張りに関する解説パネル三枚を製作して展示し、現地での解説を行った【写真３】。なお、これらについては、筆者と当館学芸員の吉原大志が行った。





【写真３】下張り文書に関する展示

（三）展示資料について

曝涼展で当館が展示した解説パネルと五点の下張り文書は、以下のとおりである。展示にあたっては、「不徹庵」の文字が確認できるものや、下張り文書として利用されることの多い形状のものを中心に選定した。ここでは、資料の解説パネルの文章とともにまとめる【写真４】。

【解説パネル】

①趣旨説明

今回の展示の趣旨説明や展示資料の寄贈由来のほか、下張り文書につい

ての基本的な情報や読み取れることについてなど、下張り文書の概要を説明した。

②下張り文書の仕組み

襖や衝立を例に、下張りの層の仕組みや下張りに使われた和紙の説明などを具体的に解説した。

③下張り文書の調査作業

下張り文書のはがし作業についての具体的な説明や、はがす過程における現状記録の取り方などについて、画像と共に解説した。



不徹寺の下張り文書

ふすまや屏風の表面には、ふすま紙や絵画、書が貼られています。さらにその下には、ふすまや屏風を補強するために、何層にもわたって紙が張り重ねられています。このように、ふすまや屏風を仕立てる際に張り重ねられた紙は、「下張り文書」と呼ばれています。

2020年に不徹寺から兵庫県立歴史博物館へ寄贈された衝立と襖には、古文書がいくつにも張り重ねられていました。こうした下張り文書の多くは、反古紙として使われたものですが、そこからは、地域とそこに生きた人びとの歴史的なあゆみを読み取ることができます。

ここでは、当館のふすまや屏風などの資料を通じて、下張りの仕組みや、下張り文書から読み取れることについて紹介します。

令和3年(2021)　11月6日・7日

兵庫県立歴史博物館

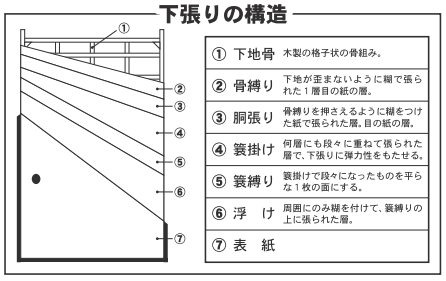
下張り文書の仕組み

襖や衝立は木で作られた骨組みの上に和紙が何重にも張られることでできており、この和紙の層を下張りと言います。和紙は規則的に並べられ、糊で張り付けることで層となり、一番外側となる表紙の下には何重もの層があるため丈夫な構造となっています。

和紙が大変貴重なものであった時代には、不要となった台帳や手紙などの反故紙(文書)が下張りに使われていました。このような反故紙(文書)は不要と判断されてから下張りとして使用されるため、その時点ですでに古い文書となっており、一つの襖や衝立から時代の異なる文書が出てくることも多くあります。

かつて反古紙であった文書は、下張りに使われなければ、捨てられていたかもしれません。しかし、張り重ねられた文書を丁寧にはがし、読み込んでみると、当時の人々の生活の様子や金銭事情などを垣間見ることができます。このように現在では、歴史資料としての下張り文書の価値が見直されています。

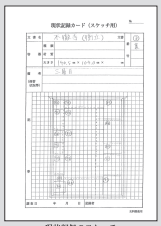
下張りの構造



① 下地骨	木製の格子状の骨組み。
② 骨縛り	下地が歪まないように糊で張られた1層目の紙の層。
③ 胴張り	骨縛りを押さえるように糊をつけた紙で張られた層。目の紙の層。
④ 簀掛け	何層にも段々に重ねて張られた層で、下張りに弾力性をもたせる。
⑤ 簀縛り	簀掛けで段々になったものを平らな1枚の面にする。
⑥ 浮　け	周囲にのみ糊を付けて、簀縛りの上に張られた層。
⑦ 表　紙	

下張り文書の調査作業

下張り文書の解体と記録



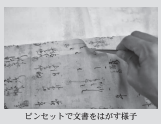
現状記録のスケッチ

何層にもわたって張り重ねられている下張り文書には、地域や人びとの歴史的な情報が多く込められています。そこで、その内容を読み解く際には、下張り文書をはがす必要があります。

ただし、はがす作業によって、もとの形状が変わってしまいます。そこで、文書がどの位置に、どのように貼られていたのかについて、カメラ撮影やスケッチで現状を記録します。

現状を記録することで、異なる文書ごとのつながりが明らかになることもあり、大切な作業のひとつです。

下張り文書をはがす



ピンセットで文書をはがす様子

下張り文書は、層によって糊付けされている箇所や、糊の濃さが異なり、そのことに注意しながらはがします。

糊が強く、はがすのが難しいときは、水分を与えて糊を溶かしながらはがす必要があります。霧吹きなどを用いて文書を湿らせ、ピンセットなどで慎重にはがしていきます。

【写真４】展示した解説パネル

〔展示した下張り文書〕

①金銭米渡帳の表紙　一八九四年（明治二七）【写真５】

下張り文書は、いくつもの層にわたって張り重ねられることから、まとまった分量の同じサイズの紙が必要となる。そのため、金銭や物品などの計算に関する帳簿などが解体されて下張りに活用されることが多かった。この文書は、不徹寺と他の寺庵とのやりとりについて、明治時代に作成された帳簿の表紙で、「不徹庵」の文字が見える。

②不徹庵永続講加入申込券　近代【写真６】

印刷された申込券で、不徹寺に近い「黒崎村」の地名が読み取れる。住職にご覧いただいたが、永続講がどのようなものであったのかは不明ということであった。

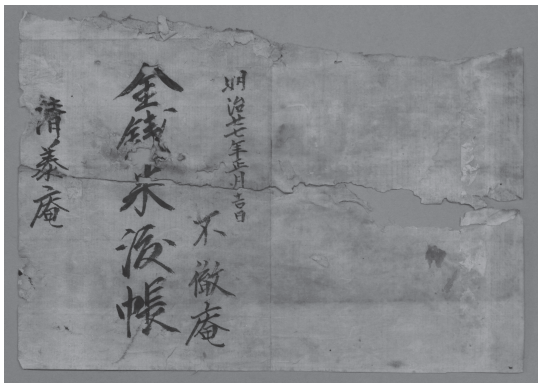
③奉公人請け状　一七八八年（天明八）【写真７】

奉公人請け状とは、奉公に出る者の身元を証明するもので、出身の村から奉公先の村に対して提出された。ここでは、播磨国吉福村（現・太子町）から黒崎村（現・たつの市）へ奉公に出る女性の身元に関するもので、奉公の契約期間や、その間は奉公に専念すること、もとの檀那寺についての情報などが記されている。

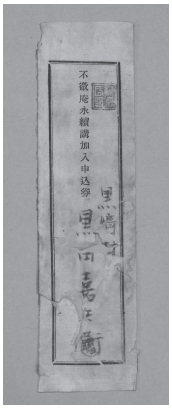
この文書はちょうど真ん中で分かれており、同じ衝立のなかの別の箇所に下張りされていたが、はがし作業の過程で、もとはひとつの文書であることが明らかとなった。

④暦に関する刊行物　江戸時代【写真８】

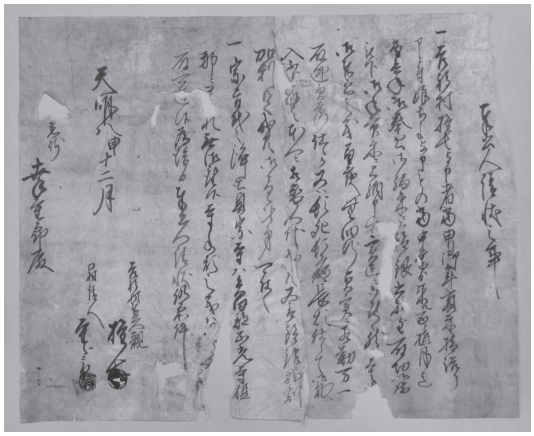
丁数の多い版本は、同じサイズの紙が多く綴じられることから、下張りに活用されることが多い。



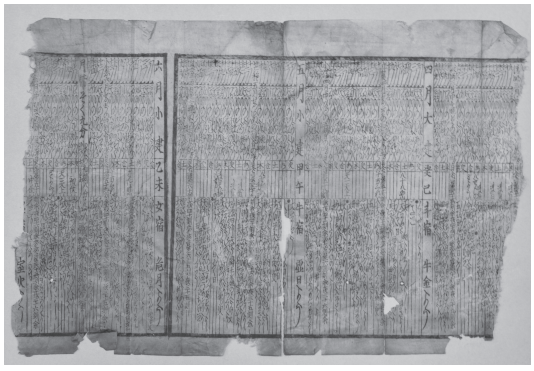
【写真５】展示資料①



【写真６】展示資料②

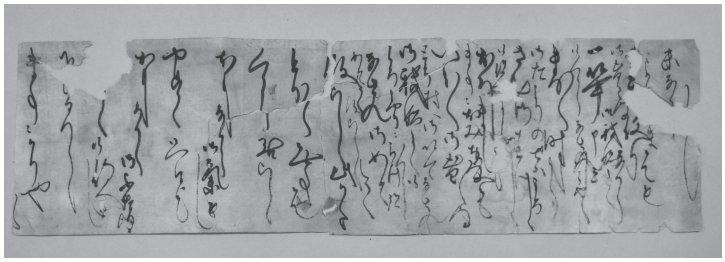


【写真７】展示資料③



【写真８】展示資料④

⑤女筆の書状　江戸時代【写真９】



【写真９】展示資料⑤

女性が知り合いの女性に宛てた手紙のひとつで、江戸時代には「女筆」と呼ばれた。女筆には約束事があり、ひらがな・カタカナのかな文字（女文字）を駆使すること、女性特有の丁寧な表現、典型例としては「めでたくまいらせ候」の「まいらせ候」を記号のような略字で書くこと、「御きもじ」（お気持ち）などの「もじ言葉」（室町時代の女房が使ったので女房ことばとも言う）を使うことなどがある。また、この時代の紙は貴重なので、行間に字を小さくして書き続けているのも特徴的である。

三　曝涼展での資料展示を終えて

二日間の曝涼展へは、約五十名の来場者が訪れ、盛況のうちに終了した。住職やボランティアの方々の案内により、筆者たちは、当館の展示スペースへの来場者一人ひとりに展示解説を行うことができた。この解説を通じて、古文書の内容だけでなく、下張り文書の存在やはがし作業にも興味を持たれる方が多くいたのが印象的であった。また地元の方が多く来られていたこともあり、古文書に記載のある「黒崎」「吉福」などの地名を聞くと、現在はどのあたりの土地を示すのかということや、その土地の特徴や由来、関係性などに関しても教えていただき、筆者たちにとっては、館内での資料研究だけではわからないことを学ぶことができた。

今回の出張展示は、資料の由来となる地域に戻って展示を行うことで、館内の大きな企画展では展示しきれない貴重な資料を地域の方々に間近に見ていただくとともに、下張り文書の存在や地域の歴史について丁寧に解説する機会となった。下張り文書については、兵庫県内各地でボランティア活動なども含めてはがし作業や研究が行われているが、その存在に気付かず古くなった襖などを捨ててしまうことも多い。今回のように寄贈元の地域で出張展示を行ったり、地域の方や興味のある方も参加できる下張り文書の解体ボランティアの存在を周知したりすることで、貴重な一次資料である下張り文書が眠る襖や衝立などが無為に捨てられてしまうことを防ぐことにつながれば幸いである。

【参考】
不徹寺公式ホームページ　https://www.futetsuji.com/（二〇二二年二月二五日確認）